

国分寺市でのペンシルロケット水平発射実験成功から60年の時を越えてつなぐ想い



# ペンシルロケットは 宇宙開発の道に進む 決意を固めた 若き日の記念碑



## 第8回 秋葉 鏡二郎さん (元宇宙科学研究所所長・ 東京大学名誉教授)

1955 (昭和30) 年1月に「20分で太平洋横断」という見出しの新聞記事が出ます。糸川英夫博士が構想した、ロケット旅客機の記事でした。この記事に、文部省が反応します。折しも、文部省では、地球の全体像を明らかにしようとする国際地球観測年(1957年7月1日～1958年12月31日)に参加するため、観測用のロケットを打ち上げる必要に迫られています。文部省からの打診をきっかけに、糸川博士たちのロケットへの挑戦が始まります。

ロケット発射実験の準備を行う若かりし頃の秋葉さん (写真出典=JAXAウェブインタビュー「秋葉鏡二郎 ロケット開発の黎明期の熱き思いを未来へ」)

今回は、ペンシルロケット水平発射実験に参加し、日本の宇宙開発の幕開けを糸川博士と共に担ってきた秋葉鏡二郎さんからメッセージを頂きました。

ペンシルロケットの実験は、私が宇宙開発の道に進む決意を固めた若き日の記念碑です。国分寺市によれば、本欄掲載の趣旨は「軍事技術と一線を画して進められた日本の宇宙開発の草創期からの歴史を振り返ろう」ということです。回顧趣味を好まない私が執筆をお引き受けしたのは、この草創期の事情を今にお伝えしたかったからです。



65年間ロケット開発に携わってきた秋葉さん

ペンシルロケットの計画は、東京大学生産技術研究所が学術研究として着手したものです。当時、糸川先生は大陸間ロケット輸送機を長期目標として構想なさっていました。現実との落差は歴然としていました。一生の仕事として取り組めるかどうか、当時、一学生であった私は腹を決めかねていた時期でした。そんな折、国際地球観測年にこのロケット研究を役立てたいという要望が文部省からあり、その年の2月に国家事業として認められたのです。つまり、ロケットが宇宙科学研究のための物理機器として公認されたのです。一気に眼前を覆っていた霧が晴れた思いでした。



カッパロケットK-6型。観測に成功したロケットは、さらに衛星を打ち上げるとい目標に向かって前進していく (写真提供=JAXA)

市役所への申し込み・問い合わせの時間は、特記がない場合は月～金曜日午前8時30分～午後5時(正午～午後1時を除く)の受付となります。

### ふるさと納税のお礼に ペンシルロケットレプリカを 贈ります

JAXA宇宙科学研究所共催・1,000機限定

#### ■申込書での申し込み

市政戦略室までご連絡ください。申込書を郵送します。

※市HPからダウンロード可

#### ■インターネットからの申し込み

ふるさとチョイス <http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/13214>から

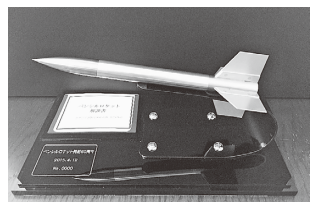
※右のQRコードからもアクセス可



★市内在住の方も申し込みできます

★寄附金額10万円(連続した2年で分割可)ごとに1機贈呈します

★確定申告またはふるさと納税ワンストップ特例制度の申請をすることで、寄附金控除を受けられます



→市政戦略室(内441)